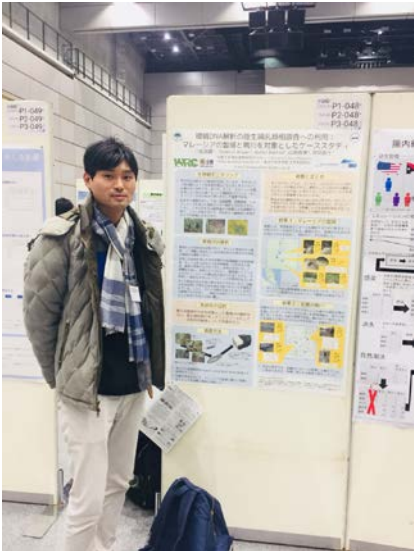


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 4 月 4 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	松島 慶

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
札幌、北海道
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
第 65 回日本生態学会大会参加
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 3 月 14 日 ~ 平成 30 年 3 月 18 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
第 65 回日本生態学会大会 (札幌市コンベンションセンター)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>札幌市にて開催された第 65 回日本生態学会大会に参加し、ポスターにて発表を行った。ポスターでは、「環境 DNA 解析の陸生哺乳類相調査への利用：マレーシアの塩場と鴨川を対象としたケーススタディ」という題目で、マレーシアと鴨川で行った環境 DNA 解析の結果を紹介した。</p> <p>近年環境 DNA を研究や調査に取り入れるチームが増えてきているのを感じていたが、今大会では環境 DNA を用いた研究のポスター発表や環境 DNA に関する集会在たくさん開かれており、改めてそれを実感した。環境 DNA はあくまで手法なので、さまざまな研究分野において活用可能なものである。一分野だけでなく、複数のエリアで発表を目にすることができたことが印象的であった。</p> <p>私がポスター発表を行っている最中にも、これから行う予定なのでアドバイスが欲しい、こんな共通な問題を持っているといったやりとりを何度も行うことになった。その中で、こういった点に注意して実験を行うといい、解析を行うといいというアドバイスをもらうこともできた。</p> <p>今後もこの研究を継続して行っていく予定だが、新しい情報をどんどん取り入れて、よりよい結果が得られるようにしたい。</p>

発表のようす
6. その他 (特記事項など)
発表ポスターの研究は PWS 及び GETBio の支援の下で行われました。